

# エホンシヤウカの歌詞について

新 國 寅 彦

詩には「讀む詩」と「歌ふ詩」がある。昔は歌ふ詩のみであつたが、文字が使はれるやうになつてから讀んで樂む詩も生れて來た。

小學校の兒童以上にはこの二種あつてよいが、幼兒は智識を受け入れるのに、文字によつてではなく、たとゞ感覺を通過してのものであるから、歌ふ詩のみでよろしい。随つて「エホンシヤウカ」の歌も讀む詩ではなく、耳で聽き繪を見て歌ふといふもののみを集め、幼兒が聽きたい歌ひたいといふ氣分、言換へるに音樂の好きになるといふ、即ち音樂趣味の養成に適當な歌曲を選んである。

從來幼兒に與へられた歌には、第一に長過ぎるものが多い。歌は長くなれば値打の出るものでもなければ、纏らないものでもない。短かいものを正しく本當に我物として歌ひ、其歌なり曲なりの中に融け込んだ時、始めて音樂の感

化を受けられる。長さといふことは幼兒の腦力からも、感興からも考へなければならぬ。西洋のものは一體に短かい。第二は感傷的のものが尠くない。生々した生活をなし明かに生立たしむべき幼兒には、明るい暢氣なものを與へなければならぬ。第三は教訓的のものが相當にある。藝術としての理解を與へて附加的の意味なら問題は無いが、藝術の姿をからずに露骨にかくせよかくしなければいふのは不適當である。「エホンシヤウカ」は以上の諸點を考慮して随分苦心を拂つたのである。

今各卷について佳作を一二御紹介したい。

「ハルノマキ」の

オヤツ

オヤツ ハ ナア ニ

オヤツ ハ ナア ニ

アレ アレ ミエル

オカアサマ ノ オテ ノ

アレ アレ ミエル

オボン ノ ナカ ニ

この歌は子供の心を子供の言葉でいつて居るのが大變よろしい。このやうな表現は樂なやうでなかくむづかしいものである。

「ナツノマキ」では「オヒサマ」がよろしい

オヒサマ ノ オメザメ

クモノ タオル デ プールンコ

バウヤ ニ オハヤウ イヒマシタ

オヒサマ ノ オチンチ

ニシ ノ オヤマ ニ スツボリコ

バウヤ ニ オヤスマ イヒマシタ

このやうな表現の仕方を文學上では、原始的比喻といふすべてを人間的に解釋するのは野蠻人の世界観である。子供の世界と野蠻人の世界には共通性がある。

「アキノマキ」では

### ダルマサン

ダルマサン ハ エライ

コロンデモ オキル

コロンデモ コロンデモ

マタ オキル

コロンデモ コロンデモ

ダルマサン ハ エライ

### オツキサマ

ウマレタ バカリ ノ

オツキサマ

ヤセテ チヒサイ

ミカヅキサマ モ

ウサギ ノ オモチ チ

タベルカラ

ダン ダン フトツテ

マルクナル

アノ ジフゴヤ ノ

オツキサマ

等がよろしい。

「フユノマキ」では

オカアサマ

オシゴト ヤメテハ

オカアサマ

ソツト ワタシ チ

ノゾキマス

ナニ ウレシイ ノ

オカアサマ

ワタシ モ ニツコリ

ワラヒマス

この歌は私共の経験からピント来る。女性的でやさしい

心を表現して居る。

ユ メ

ユメハ ダレ ガ

ミセル ノ

スグ ニ キエテ シマフ

ユメ ハ ドコ ニ

ウツル ノ

スグ ニ キエテ シマフ

ユメ ハ イツ モ

ウツ ナ ノ

スグ ニ キエテ シマフ

これも原始的比喩を用ひて居る。「ユメハダレガミセル  
ノ」「ミいふのが面白い。」

芭蕉は

氣さを以て無分別に作すべし。

ミいつて居る。直観ですつぱりやれ、頭の中でひねくるな  
ミいふのである。又

心の作はよし。こまばの作は好むべからず。

この心は幼児の歌にもうつしてさしつかへない。幼児の  
歌はすべてこの要點で作られなければならない。